

## 令和4年度 公開講座（短期課程）

担当科名	機械システム系メカトロニクス科
担当者名	山口 俊憲
講座名	中小企業のための生産改善・革新セミナー 現場改善の進め方
実施日時	① 令和5年1月11日（水） 18:00～21:00
	② 令和5年1月18日（水） 18:00～21:00
	③ 令和5年1月25日（水） 18:00～21:00
	④ 令和5年2月1日（水） 18:00～21:00
	⑤ 令和5年2月8日（水） 18:00～21:00（計15時間）
募集定員	6人（最大10名程度まで）
募 集 対 象	対象職種：不問（事務系・技術系を問わず様々な業種・職種の方が参加可能） 受講に必要なレベル：生産改善に関する知識をある程度持っており、現在、生産管理、品質管理等の管理業務を行われている方、あるいは今後その役割を担う方。 ※原則対面での実施ですが、社会状況に応じてリモートで開催する場合があります。
注 意 点	「中小企業のための生産改善・革新セミナー」は企業などの現場改善を行う同一講師が全て担当しています。6つのコース全てを受講することで、ものづくり改善に必要な知識を体系的に習得できますが、各講座を単独で受講しても理解できるような工夫をしています。例年、一つの講座を受講される方、全て受講される方、数年かけて全てを受講される方がいらっしゃいます。また、このセミナーは社会人を対象とした1年課程の「産業技術専攻科ものづくり改善コース」と一部連携しています。現場の課題解決に具体的に取り組みたい方は <b>産業技術専攻科の活用</b> もご検討ください。
講 座 内 容	生産性・品質の向上を実施するためには、現場から管理者まで様々なレベルにわたる人員の生産管理への理解、改善手法の習得、ものづくりに対する考え方の変化が必要となります。そして、改善の進め方を理解したリーダーの役割が重要となります。 本講座では、生産性・品質・安全性向上を進める上で、現場改善のリーダーに必要な知識（管理技術やノンテクニカルスキル）や改善の進め方について習得します。改善の進め方の説明に際し、担当講師が実際に取組んだ改善事例（中災防『安全と健康』2020年連載）を中心に紹介します。また、中小企業のための生産改善・革新セミナーで用いた実習教材を活用した教育を受講者が勤める企業で活用するための方法を習得します。
目 標	現場改善の中心的役割を果たすリーダーとなること。

履 修 項 目	①生産現場が目指す姿を考える	(1時間)	
	②生産、生産管理、品質マネジメントとは	(1時間)	
	③ものづくり現場におけるレジリエンス	(1時間)	
	④ノンテクニカルスキル	(1時間)	
	⑤知識・現状認識・意識の3識の共有と共感	(1時間)	
	⑥リーンシックスシグマ	(1時間)	
	⑦様々なツールを活用したIE手法	(1時間)	
	⑧改善事例の紹介	(3時間)	
	⑨現場改善の進め方	(3時間)	
	⑩管理技術・ノンテクニカルスキルに関する人材の育成 ・模擬生産ライン（多品種少量、工程バランス、リードタイム短縮への理解）を活用した人材育成の進め方 ・ブロックを用いた動作改善分析トレーニングの進め方 ・ブロックを用いた文書コミュニケーショントレーニングの進め方	(2時間)	
使用装置 ソフト・ 図書等	特になし		
受 講 費 用	受 講 料：6,900 円（15 時間コース）		
	自己負担：            円（テキスト：            円・材料費：            円）		
講座費用	報 償 費                    円	印 刷 製 本 費                    円	材 料 費                    円
	費 用 弁 償                    円	消 耗 品 費                    円	通 信 運 搬 費                    円
	普 通 旅 費                    円	使 用 賃 借 料                    円	
そ の 他	<p>○ 単位互換について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この講座を受講することで、産業技術専攻科ものづくり改善コースの「工程分析・改善」、「動作解析・改善」などに関する講義・実習の受講を一部免除する。</li> </ul> <p>○ 講師と講座について</p> <p>本セミナーの担当講師は大学・大学院で経営工学を専攻し、その後約20年、生産など様々な現場の改善に取り組んできています。また、このセミナーは社会環境の変化や講師が生産改善に取り組んだ成果などに基づき数年に一度大きな変更を加えながら10年以上開講し、延べ700名を超える方が受講しています。</p> <p>○ 新型コロナ対策について</p> <p>基本的に対面での実施を予定しておりますが、状況に応じて遠隔などで実施することがございます。</p> <p>*定員を超える申し込みを頂くことあるため、最大受け入れ人数を10名としました。</p>		